

災害概略シート

項 目	内 容
災害の名称	1914 桜島噴火
災害の種別	火山
概 要	日本における 20 世紀最大規模の火山噴火であり、桜島島内は溶岩や厚い降灰による埋没、火砕流による焼失などの被害を受け、62%の家屋が被災した。中には移住を余儀なくされた者もあった。島外でも大隅半島は莫大な降灰により、農林水産業は壊滅的打撃を受けた。また降灰による山地荒廃のため、10 年近く土石流や水害に見舞われ、道路・河川などその都度大打撃を受けた。さらに、噴火当日の地震により、対岸の鹿児島市周辺で多数の人的被害を出した。鹿児島湾岸では地盤沈下に伴う港湾被害や干拓地の水没などの被害もあった。
時 代	近世（大正時代）
発生年月日	1914（大正3年）1月12日（10時過ぎ）
主な被災地域	鹿児島県
被災規模	火山噴火に伴う犠牲者は30名程度、地震に伴う犠牲者は30名程度であったが、その後の赤痢・腸チフスなどによる病死はそれを上回った。溶岩などによる農地・宅地の埋没や、道路・鉄道・河川などのライフライン災害など物的被害も甚大だったが、統計資料が不完全で被害総額は不明である。